

# 「大学における定期口腔管理の実態について —データをまとめて—」

福岡歯科大学小児歯科学講座

副 島 嘉 男

福岡歯科大学付属病院小児歯科では、開講以来約20年間、外来初診患者の中で、当科診療システム下の管理を希望する母親に対して母親教室の受講を義務づけています。この母親教室では、母親の小児歯科診療への意識向上、齲蝕予防および早期発見・早期治療の重要性ならびに定期的な口腔管理の必要性等について説明した後、診療に当たっています。

当小児歯科の外来を受診してくる小児患者の状況は、年々変化してきています。当小児歯科が開講した昭和48年当時は齲蝕の洪水と言われ、ランバントカリエスの患者が多かったのですが、現在ではほとんど見かけないようになりました。当然これは母親の歯科治療に対する意識向上がその理由の一つと思われます。しかしながらまだ母親の中には乳歯の重要性を理解していない方も見受けられるようです。

齲蝕罹患率は減少してきていますが、それに対して、歯列不正を呈する患者が増加してきているようです。歯列不正に関しては、最終的に矯正治療を行わないと治癒しないと思っている人が多いようですが、我々小児歯科医としては、歯牙の交換がスムーズに行えるように定期的観察を行ない、歯列不正を予防したり、動的な咬合誘導により、軽度の歯列不正を治療することが可能です。そのためには定期診査が重要で、定期診査無くして小児の口腔内状況の管理は成り立たないと言っても過言ではないと思います。

そこで演者は、当科の診療システム下において管理している患者のうち、1986年から1992年の間に当科を受診した初診患者3,703名の実態調査を行うとともに、その中でも特に1990年と1991年の2年間に当科を受診した初診患者1,314名のうち、母親教室を受講した約680名の管理下患者の定期口腔管理の実情について調査したので、その結果について報告致します。